第４章　目　標

本戦略ビジョンでは、これまでの国や本県の動き、そして、本県の生物多様性の現状・課題等を踏まえ、中長期目標・短期目標を掲げ、その達成に向けて重点戦略を設定し、施策を展開します。

１．中長期目標（2050年目標）

自然と人とが共生し、豊かな自然環境と地域文化が調和するいしかわの実現



本県は、県土の大部分を占める里山をはじめ、高山帯、河川、湖沼、長く変化に富んだ海岸線など多様な自然環境があります。そこには、様々な生きものが生息・生育しており、私たちはその自然から多くの恵みを受けながら暮らしてきました。食や伝統行事、伝統工芸など地域に根付いている文化も、こうした自然により育まれてきました。これらは長年にわたり、自然と人との共生の中で築かれてきたものであり、次世代へと継承すべき貴重な財産です。

こうした背景を踏まえ、本県では、生物多様性の保全と持続可能な利用を推進することで、「自然と人とが共生し、豊かな自然環境と地域文化が調和するいしかわの実現」を目指します。

２．短期目標（2030年目標）

生物多様性を回復軌道に乗せるネイチャーポジティブの実現
～トキが舞う豊かないしかわづくり～



本州における最後の生息地として本県と大変ゆかりが深く、復興のシンボルとして掲げられているトキを、生物多様性のシンボルとしても位置づけ、短期目標を、「生物多様性を回復軌道に乗せるネイチャーポジティブの実現～トキが舞う豊かないしかわづくり～」とし、その実現に向けて、次の重点戦略のもと施策を展開します。

＜重点戦略＞

１．人と多様な生きものが共生する里山里海の利用保全の推進

トキの放鳥を契機として、里山里海の利用保全を一層推進します。

（１）里山のシンボルであるトキを育む環境づくり

（２）里山里海の資源を活用したビジネスの創出

（３）里山里海地域の振興

（４）多様な主体の参画による新しい里山里海づくり

２．自然を活用した地域づくり・社会課題の解決

白山の魅力向上・発信、令和６年能登半島地震からの復旧・復興など、本県の最近の動向を踏まえ、自然を活用した元気な地域づくりを推進します。

（１）生物多様性に配慮した農林水産業の振興

（２）気候変動への対応

（３）白山の魅力向上・発信強化

（４）自然を活用した復興推進

３．生態系の健全性の回復

これまで実施してきた生態系の保全に加え、30by30目標の実現に向けた取組等を推進することにより、生態系の健全性の回復を図ります。

（１）生態系の維持・回復・創出

（２）生きものの生態に配慮した取組の推進

（３）希少種の保全と外来種対策

（４）野生鳥獣の保護と管理

４．生物多様性に対する理解の促進・行動変容

これまで実施してきた県民等への理解促進に加え、自主的な行動を促します。

（１）行動変容に向けた生物多様性の普及啓発

（２）自然体験活動の推進

５．生物多様性を支える基盤づくりと国際的な情報共有・発信

多様な人材の育成や大学・研究機関等による調査研究に加え、これらを活かした国際的な情報発信を推進します。

（１）多様な人材の育成

（２）農林水産業を担う人材の育成

（３）ネットワークの構築

（４）国際的な情報共有・発信